

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	東京大学	申請大学長名	濱田 純一
申請類型	複合領域型（生命健康）	プログラム責任者名	宮園 浩平
整理番号	C02	プログラムコーディネーター名	岩坪 威
プログラム名	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

【目的】

- 少子高齢化が世界的に進行する中で、基礎生命科学と多様な周辺領域の上に立つ予防・診断・治療などの先端医療開発システムの構築はライフイノベーションの究極のゴールの一つであり、人類社会の重要な課題である。先端医療開発システムは複雑系であり、その先進性を担保するのは生命科学および多様な周辺領域における世界最高水準の研究である。従って、リーダーには多分野の知識と人をまとめ上げるための複合的能力「リーダー力」（自らの専門の確固たる軸足、俯瞰的視野、コミュニケーション能力、見識）が要求されるが、このような能力を養成することのできる学位プログラムは存在しない。
- 本プログラムでは、基礎生命科学と多様な周辺領域の上に立つグローバルな先端医療開発システムを構築するために必須の科学・技術を扱っている医・工・薬・理学系の専攻が緊密に協働して、部局横断型の学位プログラムを立ち上げ、上記の要求特性を満たす国際的リーダー候補人材を育成する。大学院で育成する人材と、実社会で求められる人材との間にミスマッチがあるという不満も産業界や官界から多く聞かれる。このようなミスマッチを解消し、産官からも期待される人材を生み出すことで、キャリアパスの拡大・開拓も含めた部局横断型の大学院教育改革を実践する。

【大学の改革構想】

- 東京大学行動シナリオの大方針である行動ビジョンにおいて、「真の教養を備えたタフな東大生」という項目が挙げられている。その内容を要約すると、「国際的な広い視野、強靱な開拓者精神を持ち、公共的な責任について自ら考え行動するタフな人間を、現実のさまざまな事象に向き合い、粘り強く応答し、あるべき解を求める中で、養成する。」「大学院生が存分に能力を高めることのできる環境を整え、高度専門職業人として、将来像が描けるような環境を作る。」「大学院生への研究支援を拡大し、国際的な活躍と交流の場を拡大する。」「豊かな知識を基盤に、能動的学習や国際経験・社会体験を通じて、多様な価値観の存在を意識したコミュニケーション力や、知や社会のフロントを切り拓く行動力を備えたタフな学生を育てる。」

とあり、医・工・薬・理学系の専攻が協働して、部局横断型の学位プログラムを立ち上げ、社会的に重要なライフイノベーションを先導する国際的リーダー候補人材育成を目的とする本プログラムの内容は、行動ビジョンに良く合致している。

2. プログラムの進捗状況

プログラムの本格的運用を開始した。

- 分野俯瞰講義を15回、リーダー論講義・演習を10回、輪講を18回実施した。
- H25年度における実施を目指し、ケーススタディと、リーダー論演習としてグループワークの導入を検討した。
- 学内実習として、30テーマにつき、共通実験設備の実習用実験機器を用いて実施した。
- 学外実習として、病院実習を2回、企業実習を4回、官公庁実習を1回実施した。2ヶ月の海外短期留学制度で4名、1週間以下の海外短期派遣プログラムで3名をインターンとして海外派遣した。
- 共通実験室の集約化に努め、稼働率が向上した。
- TAを採用し、本プログラムの運営支援に従事させた。
- プログラム担当者と学生が一堂に会する全体会議を開催した。
- プログラムの運営を円滑にするために、本プログラムのために雇用した教育タスクを補佐する特任教員と経理・教務・広報を行う事務支援職員とで実務連絡会を組織し、プログラム運営委員会での決定事項を実行し、現場での課題をプログラム運営委員会にあげる体制を築いた。
- 外部評価委員として企業から1名と外国機関より1名に就任頂いた。
- リーダーシップに関するプログラムの効果を測るためのアンケートを作成し、実施した。
- コース生の候補者資格審査の基準と審査方法を確立し、88名の学生に対して実施した。
- ウェブサイトにカリキュラムのシラバスや発表資料、レポート等をアップロードするシステムを整備した。
- 博士課程リーディングプログラムフォーラム2012のポスター展示及び学生のグループワークセッションに参加した。